

ロシアン・ルーツの海外起業家ネットワークはオンラインコミュニティへ

—ロシア国外におけるスタートアップエコシステム（第3回）—

ロシア・旧ソ連地域発のスタートアップ企業にとって、世界に散らばるロシアン・ルーツの起業家や投資家のコミュニティは、海外進出や海外起業をするにあたり、強力なエコシステムとして作用してきた（[第2回「ロシアン・ルーツの海外起業家を支えるエコシステム」](#)参照）。

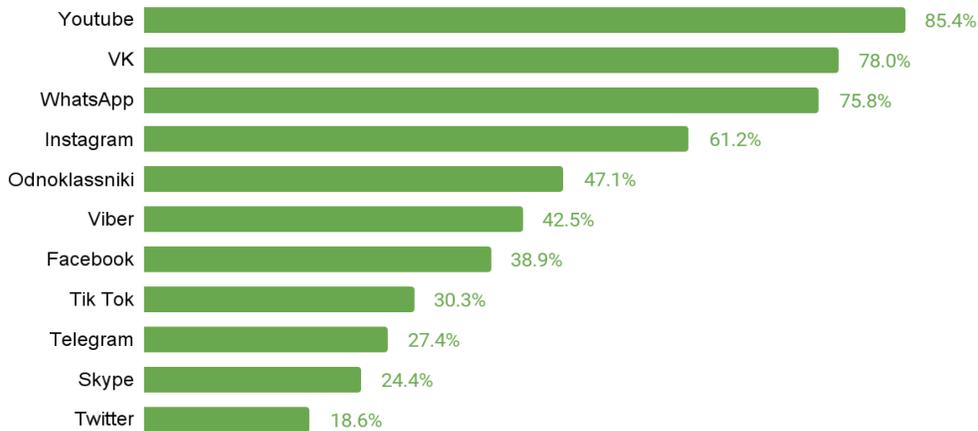
新型コロナによって移動が制限されてからは、コミュニティの繋がりもオンラインへ移行した。オンラインコミュニティの発展によって、海外進出を志向するロシアン・ルーツの起業家たちは、これまで以上に現地の情報やトレンド、人的ネットワークなどにダイレクトにアクセスすることが可能となった。

第3回目の報告では、新型コロナをきっかけに大きく発展を遂げた、ロシアン・ルーツの起業家たちを支えるオンラインコミュニティを紹介する。

オンラインコミュニティの基盤となるソーシャルメディアプラットフォーム

ロシアン・ルーツの起業家たちにとって、オンラインコミュニティのプラットフォームは、ユーチューブ（以下、Youtube）、フェイスブック（以下、Facebook）、テレグラム（以下、Telegram）などが挙げられる。Youtubeは、起業家、投資家にかかわらず、ロシアでの主要な動画プラットフォームとなった。データ分析・サービスのスタティスタ（Statista）によれば、2020年第3四半期、Youtubeはロシアにおける主要なソーシャルメディアプラットフォームでユーザーの利用率1位となっている（図1）。

(図1)ロシアにおける主要ソーシャルメディアプラットフォーム(2020Q3)、利用率(%)



出所：statista.com から筆者作成

シリコン・プラヴダ (Silicon Pravda)

シリコン・プラヴダは、ワラーム社のイワン・ノヴィコフ氏が、同名の Youtube チャンネルを中心に運営しているオンラインコミュニティである。同 Youtube チャンネルは、シリコンバレーにおけるロシアン・ルーツの起業家たちとそのエコシステムについて、ありのままを伝えることをコンセプトとし、2018 年末に立ち上げられた。2 万人以上のチャンネル登録者数をかかえ、数日に 1 回の頻度で更新されている。また、ノヴィコフ氏のこだわりとして、動画は一回録りというのも特徴的だ。コンテンツとしては、シリコンバレーでの仕事や生活についての話、同地のロシアン・ルーツの起業家コミュニティにおけるキーパーソン達との対談、ワイコンピネーターの応募書類の作り方などを配信している。

また、同名の Telegram チャンネルも存在し、チャットの参加者達はお互いに様々な質問を投げ掛け、非常に活発なコミュニティとなっている。サンクトペテルブルクでは、同 Telegram チャットからスピノフしたシリコン・プラヴダ・サンクトペテルブルクが存在し、月に 1 回オフラインでもミートアップ（会合）を行い、独自の発展を遂げている。

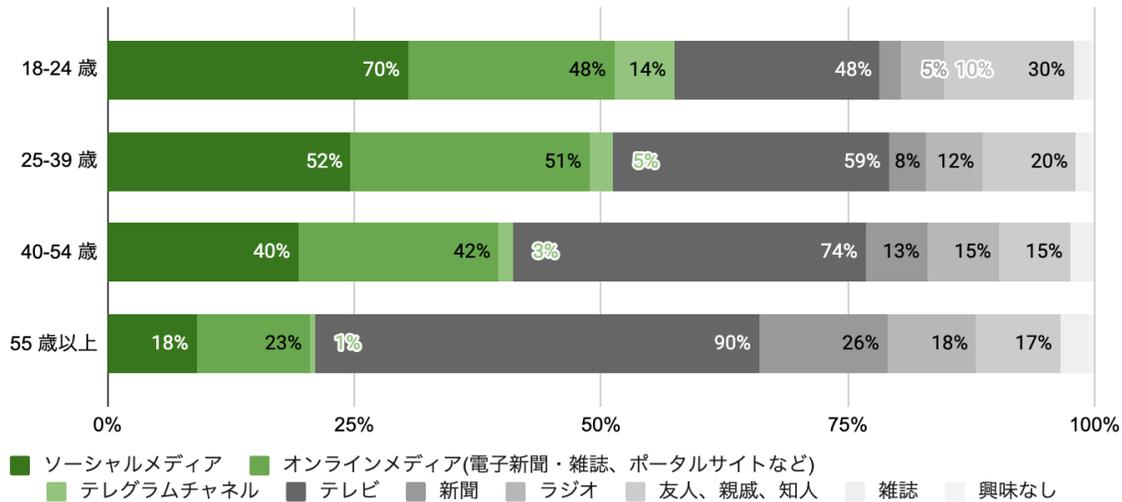
米国では Facebook は個人用 SNS として利用されるが、ロシアではビジネス SNS としての側面も強い。これは、2016年にロシアでリンクトイン（以下、LinkedIn）が使用禁止になったことも影響していると考えられる。

ワイ・コンビネーター・イン・ロシアン (Y combinator in Russian)

フェイスブック上で最も活発なオンラインコミュニティが、ワイコンビネーター・イン・ロシアンである。同コミュニティは、シリコンバレーを拠点とする有志の起業家、投資家たちによって2018年9月に立ち上げられた。前述のイワン・ノヴィコフ氏もその一人である。元々は、ワイコンビネーターに応募するロシアン・ルーツの起業家を助けるべく、応募種類の書き方指導や模擬面談などを行っていたが、現在では、グループ内の投稿内容は多岐にわたっている。最近では、米国市場に限らず、ラテンアメリカ市場や欧州市場に関する質問も散見される。グループの参加者も1万2,000人を超え、数あるオンラインコミュニティの中でも、中心的な存在となっている。

Youtube や Facebook に加えて、近年はフコンタクチェ（以下、VKontakte）の元創業者パヴェル・ドゥロフが開発した Telegram も、頻繁に使われるようになっている。Telegram は、特にエンジニアやスタートアップ業界で、多く利用されている。ロシアの主要なアクセラレーターは、プログラム採択企業とのコミュニケーションに Telegram を利用することも多い。彼らは、Telegram 内で独自のグループチャットを立ち上げ、プログラムの卒業生などを加えたコミュニティマネジメントを行っている。また、Telegram は若い世代を中心にニュースソースとしても積極的に活用されており（図2）、スタートアップに関する情報発信をおこなう様々な Telegram チャンネルが存在する（表3）。

(図2)国内外のニュースを購読する媒体(年齢層別)



出所：statista.com から筆者作成

(表3) スタートアップ関係のニュースを購読できる Telegram チャンネル

チャンネル名	購読者数	創設者
アドメト (addmeto)	6万5,000人	グリゴリ・バクノフ氏 (ヤンデックス テクノロジー導入ディレクター)
スタートアップ・ドニヤ (Startup Dnya)	4万5,000人	アレクサンドル・ゴルヌイ氏 (メイル・ルー・グループ 戦略・分析ディレクター)
ザ・エディノログ (The Edinorog)	1万4,000人	ドミトリ・フィロノフ氏 (フォーブス・ルー・テクノロジーの元編集長)
プロベンチャー (proVenture)	1万4,000人	デニス・エフレモフ氏 (ダヴィンチ・キャピタルプライベートエクイティ投資ディレクター)
ヴェンチュル・ポ・パニャチエム (Ventur po ponyatiem)	1万人	アルマス・アブルハイロフ氏 (ファンキュベーター プリンシパル)

出所：VC.ru から筆者作成

また、使用禁止は解かれていないものの、LinkedIn の利用も進んできている。欧米の市場を狙うロシアン・ルーツの起業家たちは、LinkedIn のページを作り、自身のスタートアップについて英語で発信したり、また、投資家やパートナーにコンタクトをとるツールとして活用している。欧米市場のプロモーションを支援する PR 専門家が、ロシアン・ルーツの起業家たちに LinkedIn の利用を進めている背景もある。

コロナ禍で生まれたオンラインコミュニティ

2020 年以降、ロシアでも新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、新たなオンラインコミュニティが生まれている。

メスト (Mesto)

ロシアでも新型コロナウイルスの感染が拡大していた 2020 年 4 月、Youtube 上で「ロシアン・シリコンバレー (Russian Silicon Valley)」という動画が公開された。ロシアで人気のユーチューバー兼ジャーナリストのユーリー・ドゥディ氏が、シリコンバレーにいるロシア人起業家やベンチャー投資家にインタビューを行い、彼らの実態に迫る 3 時間の動画である。この動画の中で、ドゥディ氏をシリコンバレーで迎えるのが、ベンチャー投資家のニコライ・ダヴィドフ氏である。ダヴィドフ氏は、2009 年にベンチャーキャピタリストとしてキャリアをスタートして以来、華々しい実績を残しているが、特に同氏を有名にしたのは、創業後たった 1 年で Facebook にスピード買収されたベラルーシ発のスタートアップ「マスカラード (MSQRD)」への投資である。

ダヴィドフ氏や、前述の動画に共に出演したアンドレイ・ドロニチェフ氏（グーグル本社で Youtube のモバイルアプリの立ち上げに従事）が中心となって、コロナ禍で立ち上げられたオンラインコミュニティが「メスト (Mesto。ロシア語で「場所」の意)」である。ロシアン・シリコンバレーの放送後、ドロニチェフ氏の元には、若い起業家たちから数え切れないほどの反響が寄せられた。メストは、これらの若い起業家たちが互助の価値観を共有し、繋がれる場所として発案され、約 1 年間で 79 カ国、2 万人以上のロシアン・ルーツの起業家や投資家たちが集まるコミュニティとして成長した。

メストは主に、a. 2週間のアクセラレーションプログラム、b. 個別のメンターシッププログラム「マスターマインド」、c. その他様々なオンラインイベントを運営している。メストのコミュニティには、サイトから応募することができ、コミュニティに参加すると様々な特典を受けることができる。

スタートアップ・コチキ、VC キッチン (Startup Kotiki、VC Kitchen)

2020年3月には、Youtubeを中心としたオンラインコミュニティ「スタートアップ・コチキ(Kotikiはロシア語で猫の意)」が生まれている。立ち上げたのは、著名なベンチャー投資家であるイーゴリ・ショイフォト氏(TMT インベストメント)である。

ウクライナにルーツをもつショイフォト氏は、1995年に米国に移住している。ニューヨーク大学やカリフォルニア大学などで教鞭をとるかたわら、ウクライナ発のインキュベーター「ハッピーファーム (Happy Farm)」などの運営にも関わっている。自身でもリアルアントレプレナーとして、フォトストックのスタートアップや、ゲームスタジオの企業を創業している。

Startup Kotiki は、ショイフォト氏がコロナ禍で立ち上げた Youtube チャンネルである。「教育は無料で提供されるべき」というコンセプトのもと、Youtube の動画を含めた全てのコンテンツに無料でアクセスすることが可能だ。10人ほどの中心メンバーと、数多くのボランティアによって運営されている。

同チャンネルでは、毎回ゲストスピーカーが呼ばれ、ショイフォト氏がモデレーターとなり、スタートアップやベンチャー投資に関するディスカッションが配信される。また、同チャンネル内のコンテンツ「ヴィーシーキッチン (以下、VC Kitchen)」では、3~5社のスタートアップ企業が複数のベンチャー投資家に向けてオンラインでピッチを行う。VC Kitchen への応募はスタートアップ・コチキのウェブサイトから行うことが可能だ。2021年12月時点で、チャンネル登録者数は7,000人、VC Kitchen は49回開催されている。

【本レポートの利用についての注意・免責条項】

本レポートは、日本貿易振興機構（ジェトロ）がモスクワ事務所を通じて、現地のコンサルティング調査会社 SAMI に委託し作成したものです。調査を実施した 2021 年 12 月時点で入手した情報に基づくものであり、その後の市場変化や法律改正などによって内容が変わっている場合があります。掲載した情報・コメントは作成委託先の判断によるものであり、一般的な情報・解釈がこのとおりであることを保証するものではありません。また、本レポートはロシアに関するスタートアップ企業の動向概要をまとめたものであり、必要情報を網羅しているものではありません。あくまでも参考情報の提供を目的としており、本レポートにて提供する情報に基づいて行為をされる場合には、必ず個別の事案に沿った具体的な助言を別途お求めください。ジェトロおよび SAMI は本レポートの記載内容に関して生じた直接的、間接的、派生的、特別の、付随的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、それが契約、不法行為、無過失責任、あるいはその他の原因に基づき生じたか否かに関わらず、一切責任を負いません。これは、たとえばジェトロおよび SAMI がかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

禁無断転載